

各クラスにおける教材の工夫と実践

1・2組：児童のやる気を引き出しながら様々な運動動作を引き出す指導の実践

3組：まひのある児童への身体的支援

小学部

小学部は児童の学級の実態に応じ、教材の工夫を中心に各学級ごとに取組できた実践を報告する。

1・2組の実践は自立活動指導充実事業での検討を受け、教材や活動内容の改善に努めてきたものをまとめている。3組は身体的ケアについての2年間の実践を取りまとめたものになっている。どちらも、児童の実態に応じて内容を検討しながら実践を積み上げてきたものである。

「個々に応じた学習指導の工夫」

～教材の作成・活用の実践例～

中学部

中学部に在籍する生徒は少ないながら、一人ひとりの病種や状態像が異なり、個々に応じた対応を様々な場面で求められている。今回「個々に応じた学習指導の工夫～教材の作成・活用の工夫」としてまとめた内容は、日頃の実践のほんの一部である。個々に応じて授業で工夫しながら実践していることを、作成したり活用したりしている教材にはよいものがたくさんある、今後も参考にして活用できる、という思いを職員間で共有してまとめたものである。ここでは、2年間の実践の中から、作成した教材やそれを活用した実践例として11項目紹介する。

高等部におけるICT機器の活用について」

高等部

令和元年6月文部科学省より「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策」がまとめられ、高等学校段階の病気療養中の生徒に対する遠隔教育について、受信側の教員の配置に関する要件が緩和されたことで、まさに多様な子供達を「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」を実現できることになった。

これを旨として、高等部では、生徒と学校をインターネットでつないだ授業やICT機器を取り入れた教材の工夫などを進めてきた。心身に不調を抱える生徒や入院中の生徒の学習上の負担を少なくし、より効果的な学習ができるような取り組みを紹介する。

宇都宮病院との連携 ～情報交換会での取組を通して～

やしお学級

やしお学級では、「宇都宮病院との連携」として担当看護師・保育士と学校教員の三者で年2回、児童生徒に関する「情報交換会」を実施している。その中で得られた情報を所定の記録様式にまとめて共通理解し、学級経営や児童生徒の指導を展開している。

本稿では、その実施手順や方法、記録様式等について紹介するとともに、次年度以降への課題等について考察する。

入院中の前籍校との連携のあり方 ～アンケート結果から見えてくるもの～

おおり分教室

「おおり分教室」は自治医科大学とちぎ子ども医療センターの中に設置されている。おおり分教室に転入してきた児童生徒は、退院後は前籍校に学籍を異動し、もとの学校生活に戻っていくことになる。児童生徒をスムーズな復学につなげることは、分教室の重要な役割となる。児童生徒の前籍校への移行をスムーズにする要因の一つとして分教室と前籍校との入院中の連携の在り方があげられる。適切な連携は、学習の連続性や復学後の学校生活の環境調整に大きく関わってくる。

そこで、児童生徒の退院後に前籍校にアンケート調査を実施し、入院中の分教室との連携の在り方についての感想や意見を集計し、その結果をもとに連携内容を見直し、より効果的な連携について検討することにした。